

旭川市報道依頼

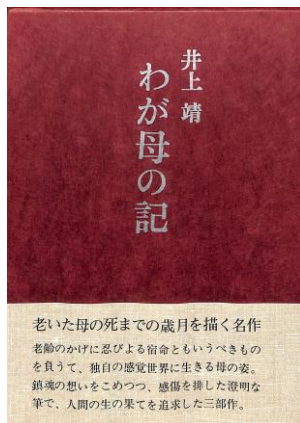
各報道機関 様

発表日	令和4年1月 日
発信課	文化振興課
担当者	佐藤・中井
連絡先	電 話 内線 8-6329
	F A X
	E-mail

分 類	<input checked="" type="radio"/> イベント・行事 <input type="radio"/> 募集 <input type="radio"/> 契約・入札 <input type="radio"/> 会議・説明会 <input type="radio"/> その他 (該当する分類を囲むこと。)
日 程	令和4年2月 5日(土曜日)～令和4年5月22日(日曜日)
発表項目 (行事名)	第3回企画展 「井上靖 人と文学Ⅻ—『わが母の記』を巡って」
概 要 (趣旨・日時・ 場所・内容等を 記入すること。)	<p>第3回企画展 「井上靖 人と文学Ⅻ—『わが母の記』を巡って」を開催します。 市民への周知を図るため、取材及び報道についてよろしくお願い申し上げます。</p> <p>期 間 令和4年2月5日(土曜日)から令和4年5月22日(日曜日)まで</p> <p>場 所 井上靖記念館(旭川市春光5条7丁目)</p> <p>休館日 毎週月曜日、ただし月曜日が祝日の場合は翌日</p> <p>開館時間 午前9時から午後5時まで(入館は4時30分まで)</p> <p>展示内容 小説家として円熟期にあった井上靖が母の老いと向き合った作品である『わが母の記』には「花の下」「月の光」「雪の面」の三つの短編が収められています。海外でも愛読されているこの作品を軸として、作家の仕事と足跡を年譜や写真、書籍と共に紹介します。</p> <p>展示総数約100、直筆原稿5点、写真26、書籍29</p>
添付資料	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 企画展チラシ
報道(取材)に当 たつてのお願い	その他詳細については、井上靖記念館にお問合せください。 電話 51-1188 FAX 52-1740 担当 上田
備 考	



井上靖記念館所蔵の直筆原稿



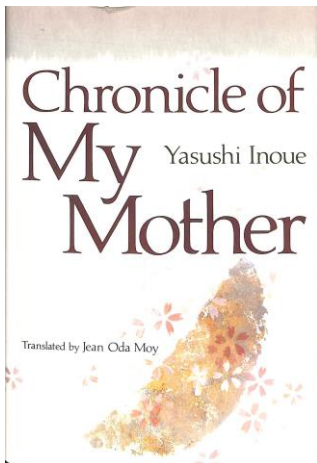
老いた母の死までの歳月を描く名作
老齡のかけに忍びよる宿命ともいうべきものを
負うて、独自の感覚世界に生きる母の姿。
鎮魂の想いをこめつつ、感傷を排した澄明な
筆で、人間の生の果てを追求した三部作。

『わが母の記』単行本

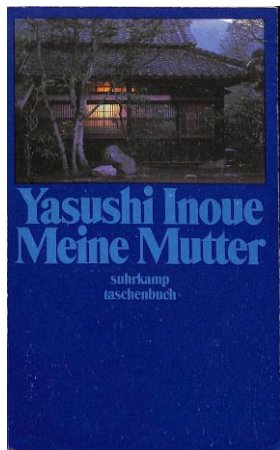


わが母の記

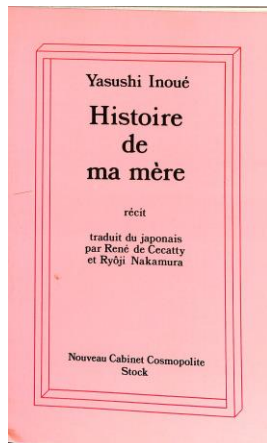
映画『わが母の記』パンフレット



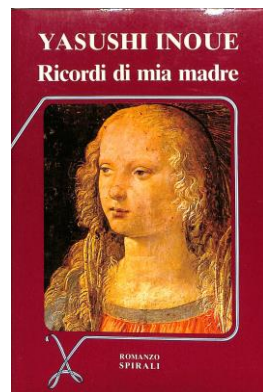
英語訳 記念館所蔵



独語訳 記念館所蔵



仏語訳 記念館所蔵



伊語訳 記念館所蔵



井上靖と母や糸 (1907年)



井上靖と両親 (1952年頃)



昭和39年11月 山梨県夜叉神峠で取材
提供：朝日新聞社



昭和48年 アフガニスタン・イラン・トルコ旅行



昭和48年11月 井上靖文学館開館
静岡県長泉町駿河平

令和3年度 第3回企画展



「花の下」挿画：今井ロゼン
昭和39年6月 『群像』

井上靖 人と文学 XII

『わが母の記』を巡って



「雪の面」直筆原稿
昭和49年 当館蔵

「雪が降っていますね。一面の雪」
と、母はまた言った。
「雪が降っているような気がするの？」
「でも、降っていますもの」
「雪なんて降っていない。星が出ている」
「雪の面」より



老いた母の死までの歳月を描く名作
老幼のかけに忍びよる宿命ともいふべきものを
負うて、独自の感覚世界に生きる母の姿。
鎮魂の想いをこめつつ、感傷を排した凄切な筆で、
人間の生の果てを追求した三部作。

『わが母の記』装幀：川島勝
昭和五十年 講談社

令和4年

2月5日(土) ▶ 5月22日(日)

指定管理者 NPO 法人旭川文学資料友の会

井上靖記念館

〒070-0875

北海道旭川市春光5条7丁目

TEL 0166-51-1188 / FAX 0166-52-1740

共催 井上靖記念文化財団
NPO 法人旭川文学資料友の会

休館日 毎週月曜日

ただし月曜日が祝日の場合は翌日

開館時間 午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

<http://inoue.abs-tomonokai.jp>

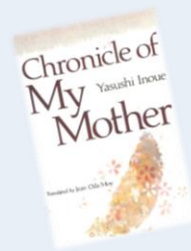
観覧料	井上靖記念館単独券			彫刻美術館共通券	
	個人	団体	パスポート	個人	パスポート
一般	300円	240円	600円	600円	1200円
高校生	150円	120円	300円	350円	700円
中学生以下	無料				

老いゆく母の姿を十年の歳月の中に描いた三作の短編小説「花の下」、「月の光」、「雪の面」。昭和五十年、この三部作は一冊にまとめられ、『わが母の記』として出版されました。

その後、海外でも相次いで翻訳書が出され、生前の井上靖は旭川での講演会でも「フランスでは私より母の方が有名です」とユーモラスに語っています。

また、平成二十四年にはこの作品を原作とした映画が公開されました。撮影現場ともなった住居のうち書斎と応接間は解体後当館に移され、作品の舞台として親しまれています。

本展では『わが母の記』をテーマに、円熟期を迎えた作家の仕事と足跡を年譜や写真、書籍と共に紹介します。



『わが母の記』 ↑ 英訳
→ 仏訳
↘ 独訳
↓ 伊訳

令和3年度 第3回企画展

井上靖 人と文学 XII

— 『わが母の記』 を巡って



井上靖の両親が暮らした家
現在は伊豆市昭和の森会館に移築されている

開催期間 令和4年2月5日(土)～令和4年5月22日(日)
午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 毎週月曜日
ただし月曜日が祝日の場合は翌日
会場 井上靖記念館展示室
観覧料 常設展示観覧料に含む
(一般 300円 高校生 150円 中学生以下 無料)

井上靖記念館

北海道旭川市春光5条7丁目

TEL : 0166-51-1188

FAX : 0166-52-1740

【アクセス】

- ◆旭川電気軌道バス (約20分～25分)
 - ・「旭川駅前」バス停発 5・6・522・80番
 - ・「1条通7丁目」バス停発 522・80番
 - ※いずれも「春光園前」バス停下車すぐ。
- ◆タクシー
 - ・旭川駅から約15分～20分
- ◆自家用車
 - ・道央自動車道・旭川鷹栖インターより約10分
(駐車場は建物裏にあります)

